

| | | | |
|-----|--------------------------|------------|-----|
| 単元名 | {二つの詩を比べて読み，考えたことを伝え合おう} | | |
| 教材名 | 「よかったなあ」「さくら」 | まど・みちお 作 | |
| | 「木」 | 川崎 洋 作 | |
| | 「燃える樹」 | みずかみ かずよ 作 | その他 |

授業者 神石高原町立油木小学校 高延 恵

1 日 時 平成26年10月10日(金) 5校時

2 学 年 6学年

3 単元の目標

○詩を進んで選んだり読み比べたりする中で，それぞれの詩のよさや特徴，作者の思いについて話し合うことができる。 (国語への関心・意欲・態度)

○様々な詩の優れた叙述を表現に着目して作品の特色として捉えたり，それに対する自分の考えをまとめたりして読むことができる。 (読むこと エ)

○作品を読んで考えたことを発表し合い，自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 (読むこと オ)

○比喩や反復などの表現の工夫について理解することができる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ケ))

4 評価規準

| 国語への関心・意欲態度 | 読む能力 | 言語に関する知識・理解・技能 |
|---|--|---|
| ・選んだ詩を主体的に読み深めたり，グループや全体での話し合いに積極的に参加したりして，それぞれの詩のよさや特徴，作者の思いを理解しようとしている。 | ・詩における語句の意味や表現の効果を捉え，それぞれの詩のよさや特徴，作者の思いを読み取り，それに対する自分の考えをまとめたりしている。また，複数の作品を比べて読み，共通点を見つけ作品の特色を理解している。 | ・詩の中にある反復，擬態語，擬音語，体言止め，比喩，擬人法など，表現の工夫に気づいている。 |

5 単元を貫く言語活動 「詩を比べて読み，考えたことを交流しよう」

「比べ読み」とは，観点を定めて作品の一部を焦点化しながら，比べて読む活動である。比べて読むことで，その作品の特徴をとらえたり，表現の工夫などの気付きを基に自己表現に役立てたりすることができる。また，同じ作者の詩や同じ題材の詩を読むことで，詩の内容や作者のものの見方や考え方について理解を深めることができる。

この単元では，まず，まど・みちおの詩を2編読み，表現の工夫を捉えたり，共通点や相違点をまとめたりしながら，感じたことや考えたことをまとめる。次に，同じ題材の詩を2編読む。単元の終末では，各自で選んだ2編以上の詩を読み取り，まとめ，紹介し合う。

6 本時の目標

二編の詩を表現方法の工夫や共通点、相違点等に注目しながら比べて読み、作者の見方・考え方について読み深め、自分の感想をもつことができる。

7 本時の展開

| | 学習活動 | 指導上の留意点(・)及び評価(○) |
|-------------|---|---|
| つかむ | 1. 本時の課題をつかむ。 | ・音読の後、課題を提示する。 |
| | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 二つの詩を比べて読み、まど・みちおのものの見方や考え方について話し合おう。 </div> | |
| さぐる ねりあう | 2. 一人で読み、課題に対応している叙述を選択する。 3. 読み取ったことを全体で交流し深める。 T: 作者のものの見方や考え方がわかる場所はどこですか。 T: 共通点や相違点にも注目してみましょう。 ○どちらも「草や木」「さくら」等植物のことについて書いてある。 ○詩①「よかったなあ」、詩②「きれいだなあ」と言葉の終わりに「なあ」が付いている。 ○詩①「いてくれて」詩②「ほめてあげられたら」等植物に対して人のように感謝の気持ちなどをもっている。 ○詩①は草や木全体のことを言っている。詩②はさくらを見つめて書いている。 ○詩①は、美しさ、違いがあるありがたさ、いつでも受け入れてくれるありがたさが、書かれている。詩②は、美しさだけに注目している。 ○題名から詩①は植物がいてくれてよかったという思い、詩②はさくら自体の美しさを表している。 ○詩①は満足感、詩②は自分の気持ちを伝えられないもどかしさがあり、それが、「…」にも表れている。 | ・叙述から読み取った作者の考え等を書き込ませる。 ・書き込むことができない児童には「詩を読むときの観点」を基にするとよいことを伝える。 ・疑問に感じる言葉や表現の仕方について出し合い、検討していく。 ・作者の考え等がわかることから交流を始め、共通点や相違点にも注目できるように進める。 ・繰り返し使われている言葉に着目させたり、連を比較させたりして作者の思いに迫らせる。 ・グループでもう一度共通点などをもとに話し合う。 ・友達の考えとの共通点や相違点に着目して自分の読みを見直すよう助言する。 |
| まとめる | 4. 本時の学習をまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 詩①からは、草や木がいてくれることは、人だけでなく他の動物にもうれしいことだと思っています。 詩②は、作者がさくらの美しさに感動して、その感動をきちんとさくらに伝えたいと思っていることがわかります。 二つの詩を比べて読むと、まどさんは、植物に対して、友達のように大切な存在だと考えていることがわかります。 </div> | ○二編の詩を比べて、表現方法の工夫や共通点、相違点等に注目しながら、作者の見方・考え方について読み取り、自分の感想をもっている。(発言・ノート) |

全体

【単元を貫く言語活動との関連】
同じ作者の二つの詩を比べて読み、作者のものの見方・考え方についてせまろう。

個人

課題「二つの詩を比べて読み、まど・みちおのものの見方や考え方について話し合おう。」

一人で読み、それぞれの詩から、まどみちおのものの見方・考え方を読み取り書き込む。

詩1『よかったなあ』は、人間にとって草や木がいてくれてありがたいという気持ちをまどさんが持っていることがわかる。

詩2『さくら』では、作者は、さくらが咲いてもすぐちることや、その美しさに感動したことを表している。

全体

T：二つの詩の共通点や相違点にも着目してみましょう。

共通点は、どちらも植物について書いている点だ。相違点は、詩①『よかったなあ』は、「よかったなあ草や木がいてくれて」と、どの連にも繰り返して書いてあるから、植物に感謝している。詩②『さくら』は、「きれいだなあ」が繰り返して書かれているから、その美しさに感動している点だ。

C：詩①『よかったなあ』の4連と、他の連との違いに気づいていない。

C：詩②『さくら』の7連に着目できていない

T：まどさんの思いが一番表れているのは何連だと思う？

T：4連にも「よかったなあ」等同じ言葉があるけれど、他の連と同じ？

C：繰り返しがあるから、3連だと思う。
C：6と7連だと思う。

C：1～3連は、ぼく達人間にとってよかったということで、4連は草や木にとってよかったということ。
C：草や木も、雨・風・太陽などによってかがやいているから、草や木もいろいろなものに支えられている。

C：6・7連には「…」がある。何か続きがあるんじゃない？

T：じゃあ1・2連と3連との違いはないかな？

T：さくらのことばって？

C：3連は「鳥やけものや虫や人」と書いてある。
C：人だけでなく他の生き物全部にとってよかったと書いてある。
C：まどさんは、他の生き物のことも人と同じように考えてるのかもしれないな。

C：さくらにもわかるように、伝えたい。
C：さくらを人のように思っている。

グループ

グループで、もう一度、共通点などをもとに、作者のものの見方・考え方について考える。



T：内容面での共通点や相違点はどうかな？

個人

詩①からは、草や木がいてくれることは、人だけでなく他の動物にもうれしいことだと思っています。詩②は、作者がさくらの美しさに感動して、その感動をきちんとさくらに伝えたいと思っていることがわかります。二つの詩を比べて読むと、どちらも植物に対して、友達のように大切な存在だと考えていることがわかります。

【単元を貫く言語活動との関連】 次の時間は、同じ題材の二つの詩を比べて読もう。

読むこと(詩)

○ 詩を楽しもう「せんねんまんねん」では、自分の感じたことや思ったことがよく伝わるように音読を工夫した。また、この1年間
は、作品や作者・筆者の考えから様々な生き方やもの考え方を読み、1年後には自分の「命」観をもとうという目標を設定したの
で、この詩から伝わる「命」観を読んだ。(読むこと ア・カ)

児童実態

読み取ったことを表そうと声の大きさや速さに変化をつけて音読していた。題名と関連付けて作者の意図を読もうとする
姿も見られた。しかし、反復表現や擬人表現等の技法に気付いても、その表現から感じる効果については明らかにすること
ができない児童もいる。また、26年度全国学力国語B図では、二つの詩を比べて読み、共通点や相違点を取り上げ、条件
に合わせて自分の考えを書くことができない児童が31.2%いた。

単元を貫く言語活動「二つの詩を比べて読み、考えたことを伝え合おう」

| 次 | 時 | 学習活動 | 指導のポイント |
|---|---|--|---|
| 1 | 1 | ・「ことばのお宝帳」や既習の詩を再読し、詩の読み方を振り返る。 | ・これまでに教科書で学習した詩を再度読んで、それぞれの詩の特徴を話し合わせ、詩を読むときの観点をまとめることができるようにする。 ☆「表現の仕方」☆「作者や語り手」 |
| | 2 | ・学習課題「同じ作者や同じテーマの詩を比べて読み、考えたことを伝え合おう」の設定をし、学習計画を立てる。 同じ作者や同じテーマの詩を比べて読み、考えたことを伝え合おう ・並行読書を始める。 | ・並行読書をし多くの詩に触れながら、好きな詩を複数選択させる。同じ作者の作品、または同じ題材の違う作者の作品でもよいこととする。 |
| 2 | 3 | ・同じ作者の二つの詩を読む。 | <u>重層的に読む① 全体の構成を読む</u> ・個人で読む。 構成を捉え、時間や場面など把握し、全体像をつかませる。 |
| | 4 | ・同じ作者の二つの詩を比べて読む。(本時) | <u>重層的に読む② 作者の意図を読む</u> ・全体で読みを交流する。 表現方法や表記に着目し、主題を捉え作者のものの見方に学ぶ。 |
| | 5 | ・同じテーマの二つの詩を読む。 | <u>重層的に読む① 全体の構成を読む</u> ・個人で読む。 構成を捉え、時間や場面など把握し、全体像をつかませる。 |
| 2 | 6 | ・同じテーマの二つの詩を比べて読む。 | <u>重層的に読む② 作者の意図を読む</u> ・全体で読みを交流する。 表現方法や表記に着目し、主題を捉え作者のものの見方に学ぶ。 |
| | 3 | 7 | ・自分で選んだ二つの詩を比べて読む。 |
| 3 | 8 | ・詩の鑑賞会をする。 | ・各自が選んだ詩を紹介し合う。 |
| | 9 | ・単元を振り返り、「ことばのお宝帳」へ学んだことを書く。 | ・「ことばのお宝帳」へ筆者の意図を読むためにはどうすればよいかまとめさせる。 |

様々な詩を読む。「並行読書」

単元を貫く言語活動との関連

☆平成26年度 授業アイデア例より ※ 詩を読むときの観点 ※

☆表現の仕方☆

○連の構成

○技法

- ・反復
- ・体言止め
- ・比喻法
- ・擬人法
- ・倒置法
- ・省略法
- ・擬音語
- ・擬態語

☆作者や語り手☆

○視点

- ・だれが
- ・どこで
- ・何をみているか

○ものの見方や考え方

- ・やさしい
- ・あたたかい

並行読書

- ・まど・みちお全集
- ・いいけしき
- ・こえがする
- ・ポケット詩集II
- ・パタポン
- ・しかられたかみさま等

詩一 よかったなあ

① よかったなあ 草や木が
② ぼくたちのまわりをいってくれて
③ 目のさめる みどりのはっぱ
④ 美しいものの代表 花
⑤ かぐわしい 実

詩二 さくら

① さくらの つぼみが まど・みちお
② ふくらんできた
③ と おもっているうちに
④ もう まんかいに なっている
⑤ きれいだなあ
⑥ きれいだなあ
⑦ と おもっているうちに
⑧ もう ちりつくしてしまふ
⑨ まいねの ことだけれど
⑩ また おもう
⑪ いちどでも いい
⑫ ほめてあげられたらなあ…と
⑬ さくらの ことばで
⑭ さくらに そのまんかいを…

「この二つの詩から、まど・みちおは、植物をよく見ていることがわかります。『よかったです。』『よかったです。』と書いてあるからです。そして、植物に感謝していることもわかります。それは、『さくら』では『さくら』と書いてあり、ほめてあげられたら、『さくら』は、植物に感謝していることもわかります。植物があることが、幸せなことだと感じていることがわかります。まど・みちおは、『さくら』の前の詩で『さくら』のことをよく見るようになって、いろいろなものがあるの気が付くことができるようになるのでもってみたいと思います。」

詩一では、「よかったなあ」では、語尾に「あ」が表れている。心からそう思っていることがわかる。

詩二では、「きれいだなあ」と同じように語尾に「あ」が表れている。感動していることがわかる。

詩一では、「きれいだなあ」とあるけど、それはどういう意味かなあ？ みんなに聞いてみたい。

「ことばのお宝帳」へのポイント

- 詩を読むときは、表現の仕方に着目し、作者のものの見方や考え方をとらえる。
- 複数の詩を比べて読むことで、詩の主題や良さ、特徴を捉えることができる。

